

平成30年度 政策評価表

総合的に取り組む重点課題	子どもを大切にすまちづくり	ゼネラルマネージャー	こども未来部長 本田 静香
--------------	---------------	------------	------------------

後期基本計画で掲げた取り組み方針
1 教育力の向上
2 子ども・子育て支援の充実
3 所沢市こども支援センターの整備

1. ゼネラルマネージャーによる活動計画

計画期間における方向性	<p>・教育については、学ぶなら所沢と言われる教育環境を実現するため、教職員の力量を高め、十分に力を発揮できる環境を創る。</p> <p>・子育てについては、子どもの成長を家族などの身近な人が喜びや生きがいとして感じることができる社会を目指す。</p>			
各年度の目標	H27(実績)	H28(実績)	H29(実績)	H30
	<p>・教育環境の充実</p> <p>・子育て環境の充実</p>	<p>・教育環境の充実</p> <p>・子育て環境の充実</p>	<p>・教育環境の充実</p> <p>・子育て環境の充実</p>	<p>・教育環境の充実</p> <p>・子育て環境の充実</p>
各年度の活動内容	<p>(1)教育力の向上</p> <p>・学力向上支援講師を配置するとともに、「学び創造プラン」に基づき、学校・家庭・地域の教育力の向上を図った。</p> <p>(2)子ども子育て支援の充実</p> <p>・平成28年4月開園に向け、民間保育園2園の施設整備を進めた。</p> <p>・中富小学校放課後児童対策一体運営を実施した。</p> <p>・狭隘化、大規模化が著しい児童クラブの対象学校区への方策として民設民営児童クラブの導入準備を進めた。</p> <p>・利用者支援事業(とろっこ子育てサポート事業)として、こども支援課内に専門職員を配置し、子育て支援事業についての情報提供・相談・助言を行った。</p> <p>・子ども子育て新制度移行に伴い、利用時間が、標準、短時間に分かれ、保育時間について正確な時間の記録をするため、各園にタイムレコーダーを導入した。</p> <p>・平成29年1月に開設予定のこども支援センターについて、専門機関と開設に向けた連携協定を締結するとともに、条例の制定や事業費の予算化を進めた。</p>	<p>(1)教育力の向上</p> <p>・学力向上支援講師10人を配置した。</p> <p>・「学び創造プラン」に基づき、教員の指導力の向上を図った。</p> <p>・教育用ICT環境を整備した。</p> <p>・次期学習指導要領改訂を踏まえ、英語や道徳の指導力向上のための研修を実施した。</p> <p>・不登校予防と児童生徒の学校復帰に向けた支援を進めた。</p> <p>(2)子ども子育て支援の充実</p> <p>・子ども・子育て会議を3回開催し、子育て支援に関する各種事業の進捗管理等を行った。</p> <p>・「所沢市放課後児童対策実施方針」に基づき、泉児童クラブの泉小学校施設内への移転に向け、調整・準備を進めた。</p> <p>・民設民営児童クラブを設置した。</p> <p>・こども支援センターを平成29年1月に開設し、子育て支援事業と発達支援事業を開始した。</p> <p>・利用者支援事業として、保健センターに妊娠・出産・育児に関する専門の相談窓口を設置し、情報提供・相談・助言を行った。</p> <p>・三世帯同居(近居)を進めるため、関連事業を紹介するホームページを作成した。</p> <p>・すべての子どもが生まれた環境によって左右されることなく健やかに成長するための施策(いわゆる子どもの貧困対策)について庁内各課に調査を行い、情報共有を行った。</p>	<p>(1)教育力の向上</p> <p>・学力向上支援講師を10名配置により、担任等が児童生徒と向き合う時間が増えた。</p> <p>・学校・家庭・地域が一体となり、地域総がかりで児童生徒の学ぶ力の向上を目指した「学び創造アクティブプラン」をスタートした。</p> <p>・学校司書を2名増員し、新たに小学校4校に配置して読書活動の拡大を図ることができた。</p> <p>・新学習指導要領への移行を見据え、道徳及び小学校英語の教科化・早期化に向けた研修会を実施した。</p> <p>・今日的課題を踏まえた教職員の研修を充実させ、教師の授業力向上を図った。</p> <p>・不登校予防と児童生徒の学校復帰に向け、すべての学校の組織力を高めるとともに、関係機関との連携を促進した。</p> <p>・学校給食センターの再整備に向け、様々な手法について研究・検討を行うため、「給食センター再整備手法調査業務委託」を開始した。</p> <p>(2)子ども子育て支援の充実</p> <p>・子ども・子育て会議を3回開催し、子育て支援に関する各種事業の進捗管理及び中間年の見直しについて検討を行った。</p> <p>・児童館生活クラブの定員拡大や民設民営児童クラブの新設、泉児童クラブの移転等により放課後児童健全育成事業の充実を図った。</p> <p>・こども支援センター「大地」では、子育て支援エリア「ルピナス」と発達支援エリア「マーガレット」が併設されている強みを生かし、合同事業の開催を行い事業の充実を図った。</p> <p>・利用者支援事業について、育児相談や保育園・幼稚園等の利用方法などの子育て支援メニューの案内をこども支援課窓口及びこども支援センターで実施した。また、「子育て世代包括支援センターかかも」において、助産師等の専門相談員が相談、助言及び関係機関等との連携により支援を行った。</p> <p>・所沢市ホームページで、三世帯同居を進めるための施策に関する事業について掲載し、周知を図った。</p> <p>・すべての子どもが生まれた環境によって左右されることなく健やかに成長するための各事業について、関連事業を掲載している国のポータルサイトの内容を更新し、所沢市ホームページにリンクさせ、情報の周知に努めた。</p>	<p>(1)教育力の向上</p> <p>・今日的課題、次期学習指導要領の移行措置に伴う教職員の研修、調査・研究を充実させるとともに、学び創造アクティブプランを通じた学校・家庭・地域の教育力の向上を図る。</p> <p>・学力向上支援講師を2名増員し、12名配置し、個に応じたきめ細かな指導の充実と学校の課題解決や積極的な教育活動推進を図る。</p> <p>・各学校が地域の特性を踏まえ、創意工夫を生かした学校づくりを推進する。</p> <p>・不登校予防と児童生徒の学校復帰に向けた支援を進める。</p> <p>・児童生徒に安全・安心な学校給食を安定的に提供するために学校給食センターの再整備を進める。</p> <p>(2)子ども子育て支援の充実</p> <p>・「子ども・子育て支援事業計画」に基づき、子育て支援の充実を図るとともに、次期計画期間に向け、進捗状況の検証を行い、策定の準備を始める。</p> <p>・児童館生活クラブの定員拡大や民設民営児童クラブの活用、児童クラブ施設の整備等により放課後児童健全育成事業の充実を図る。</p> <p>・妊娠、出産、育児に関する事業の充実を図る。</p> <p>・三世帯同居(近居)に関する各事業の充実を図る。</p> <p>・すべての子どもが生まれた環境によって左右されることなく健やかに成長するための各事業の充実を図る。</p>

2. 計画期間における目標指標

指標名	単位	策定時の 数値	H29年度 実績	H29年度 目標値	H29年度にお ける達成率	将来目標 (H30)
教育センター研修会の満足度	%	72.0	71.1	75.0	94.8%	76.0
地域子育て支援拠点施設の利用者数	人	126,685	283,167	252,000	112.4%	256,000
所沢市こども支援センターの利用者数	人	—	105,373	61,000	172.7%	64,000

3. 第5次所沢市総合計画後期基本計画内にある施策のうち「充実すべき施策」と感じている市民の数(「平成29年度所沢市市民意識調査」の結果)

節 名 称		「充実すべき施策」と感じている人数 (2,197人中)	割合	全42節中順位
第3章「健康・福祉」	第2節「子ども支援」	997人	45.4%	10位
第3章「健康・福祉」	第3節「青少年育成」	727人	33.1%	28位
第4章「教育・文化・スポーツ」	第2節「学校教育」	829人	37.7%	22位
第5章「産業・経済」	第5節「労働・雇用環境」	944人	43.0%	14位

4. 政策を構成する主要事業の進捗状況

事業名	H29 決算額 (単位:千円)	H30 予算額 (単位:千円)	成果指標				
			指標名	単位	H29 実績	H29 目標値	達成率 (%)
学力向上支援講師配置事業	20,068	25,200	学校における検証結果(配置校校長の評価の「良い」以上の平均)	%	90	100	90%
「学び創造アクティブプラン」学力向上推進事業	5,167	5,567	研究委託校における参加者の人数	人	1,130	1,000	113%
学校トイレ改修事業	461,906	561,619	学校トイレの改修率	%	35	32	109%
所沢市子ども・子育て支援事業計画推進事業	521	653	順調に進んでいる事業の件数	件	16	16	100%
ところっこ子育てサポート事業	3,123	3,402	相談件数	件	872	840	104%
地域子育て支援拠点事業	82,752	92,600	地域子育て支援拠点施設の利用者数	人	283,167	252,000	112%
児童クラブ施設整備事業	61,432	62,363	児童クラブ人数の適正化率(大規模児童クラブ)	%	68	100	68%
妊娠・出産つづけてサポート事業	9,486	11,448	妊娠・出産について満足している親の割合	%	81	73	111%
乳児家庭全戸訪問事業	12,910	17,213	本事業による把握率	%	90	93	96%
三世同居リフォーム資金補助事業	2,915	3,000	三世同居リフォーム補助件数	件	19	15	127%
こども支援センター運営事業(子育て支援)	30,974	37,210	利用者満足度	%	98.35	100	98%
こども支援センター運営事業(発達支援)	146,326	143,248	利用者満足度	%	93.0	100	93%

5. 各取り組み方針における進捗状況

1 教育力の向上	2 子ども・子育て支援の充実
<ul style="list-style-type: none"> ・学校・家庭・地域の連携を深め、確かな学力や自立する力を育んだ。 ・埼玉県学力・学習状況調査では、全体として本市の平均は全県平均を上回った。 ・教師が、児童生徒の主体的な学びと学び創造アクティブプランの一時間の授業の流れを意識し、子ども同士が学び合う授業改革を進めた。 ・トイレの改修工事を、事業開始より小学校14校・中学校8校にて実施した。 ・市内全小中学校で開催する家庭教育学級や、就学時健診等の機会を利用した子育て講座などにより、家庭における教育力の向上を図った。 ・英語教育を再点検し、次期学習指導要領の全面実施を見据え、「未来に羽ばたく人材育成のためのTokorozawa English Action Plan:TEA-Plan」を策定した。 ・学校給食センターの再整備に向け、様々な手法について研究・検討を行うため、「給食センター再整備手法調査業務委託」を行った。 ・学習指導要領の改訂に伴い、道徳教育や小学校の英語教育に関する研修会や研究により、教職員の指導力の向上を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども・子育て会議を開催し子育て支援に関する各種事業の進捗管理を行った。また、平成29年度は、子ども・子育て支援事業計画の中間年の見直しについて検討を行った。 ・こども支援課とこども支援センター内に専門職員を配置し、利用者に対し子育てや保育施設等についての情報提供や相談・助言を行った。また、ところっこ子育てサポート事業のチラシを作成し、各保育施設に配布を行い周知を行った。 ・まっぴら児童館とやなぎ児童館の生活クラブの定員拡大や泉児童クラブの小学校への移転に伴う定員拡大、また民設民営児童クラブの開所などにより受け入れ数を確保した。 ・保健センター内に設置した妊娠・出産・育児に関する専門の相談窓口(子育て世代包括支援センター かるがも)にて、妊娠期から子育て期に関する情報提供や相談・助言を行った。
3 所沢市子ども支援センターの整備	<ul style="list-style-type: none"> ・こども支援センター「大地」では、子育て支援エリア「ルピナス」と発達支援エリア「マーガレット」が併設されている強みを生かし、月に一度「マーガレットさんと話そう」を開始する等、合同事業の開催を行った。 また、発達支援においては、通所支援を行うとともに、地域支援をさらに進めた。 ・国のふるさと応援基金充当事業を利用し、支援に必要な教材や備品を購入し設備整備を進めた。

6. 平成29年度における目標の達成に向けた推進状況及び自己評価	記入日	H30.7.4
----------------------------------	-----	---------

<p>(1)教育力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上支援講師を10名配置したことにより、担任等が児童生徒と向き合う時間や教材研究・授業準備を行う時間が増えるとともに、児童生徒に対し、多面的な視点から個に応じた支援を行うことができた。 ・学校・家庭・地域が一体となり、地域総がかりで児童生徒の学力の向上を目指した「学び創造アクティブプラン」をスタートし、各学校では、授業の構成を明確にした授業の基本形(スタンダード)が定着し、児童生徒の実態や学習内容に応じて、創意工夫を凝らした「学び合う授業」の展開が生まれている。また、地域の人材を活かした教育活動が広がり、体験活動が盛んになり、特色ある学校づくりへとつながっている。 ・学校施設の老朽化が進む中、継続的に様々な修繕対応を行い良好な教育環境の維持管理に努めている。その中で洋式化や老朽化対策が喫緊の課題であるトイレ改修事業については、小中学校6校の設計と6校の工事をし、計画的に進めている。 ・新学習指導要領への移行を見据え、道徳及び小学校英語の教科化・早期化に向けた研修会を実施し、各学校では、授業の準備や授業改善に向けて準備を進めることができた。 ・学校給食センターの再整備手法について研究・検討を行い報告書を作成した。 ・今日的課題を踏まえた教職員の研修を充実させ、教師の授業力向上を図った。研修会満足度は、「たいへんよかった」72%、「ややよかった」27%となっており、効果的に実施することができた。 ・不登校予防と児童生徒の学校復帰に向け、小中学校47校すべての教育相談室訪問を実施した。学校の組織力を高めるとともに、関係機関との連携を促進した。不登校予防研修会のアンケートでは、「たいへんよかった」61%、「ややよかった」38%と満足度は高かった。 <p>(2)子ども・子育て支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども・子育て会議を3回開催し、子育て支援に関する各種事業の進捗管理及び子ども・子育て支援事業計画の中間年の見直しについて検討を行った。委員の意見を踏まえ計画的に進めることができた。 ・まっぴら児童館とやなぎ児童館の生活クラブについて、定員拡大と泉児童クラブの小学校への移転により、74名の受け入れ数を確保した。また、施設の狭隘化と大規模化が著しい小手指・北野・北中・上新井小学校区について、民設民営児童クラブを開所することで、80名の受け入れ数を確保し、2か所の民設民営児童クラブについて開所に向けた準備を進めた。いずれも計画通り進めることができたが、利用者数が年々増加していることから、大規模児童クラブの解消には至らなかった。 ・こども支援センター「大地」では、子育て支援エリア「ルピナス」と発達支援エリア「マーガレット」が併設されている強みを生かし、合同事業の開催を行い事業の充実を図った。また、発達支援においては、通所支援を行うとともに、地域支援をさらに進めた。利用者満足度は93.8%から95.5%と前年度から向上し、今後も満足度向上を目指す。 ・ところっこ子育てサポート事業について、育児相談や保育園・幼稚園等の利用方法などの子育て支援メニューの案内をこども支援課窓口及びこども支援センターで実施した。また、「子育て世代包括支援センター かるがも」において、助産師等の専門相談員が相談、助言及び関係機関等との連携により支援を行い、妊娠期からの支援体制の充実を図ることができた。 ・所沢市ホームページで、三世同居を進めるための施策に関する事業について掲載し、引き続き市民へ周知を行った。掲載にあたっては、内容の充実が必要となっている。 ・すべての子どもが生まれた環境によって左右されることなく健やかに成長するための各事業について、関連事業を掲載している国のポータルサイトの内容を更新し、所沢市ホームページにリンクさせることで、効果的に市民へ情報の周知を行うことができた。 		
---	--	--

7. 政策会議における評価	記入日	H30.8.28
---------------	-----	----------

<p>学力向上支援講師を10名配置することで、学校教職員の負担が軽減され、子どもたち一人ひとりに向き合う時間を担任教諭等が確保できた点、学校司書を2名増員して、児童期からの読書活動を習慣化するための環境整備を推進できている点が評価できる。また、所沢市こども支援センターの利用者数は105,373人で、目標人数を大幅に上回っており、子育て支援エリアと発達支援エリアとの合同で実施した事業は、様々な生育環境の中で成長している子どもを持つ親たちの相互理解を深める目的で、今後も継続して開催する意義は大きい。</p>		
--	--	--